

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.589

五箇山の三段染め〈富山県〉

1995年に白川郷とともにユネスコ世界文化遺産に登録された、五箇山の合掌造り集落。100~300年前に建てられた茅葺き屋根の民家は、今も住民の手で守り続けられています。気象条件が揃えば、青空と雪山と紅葉による「三段染め」の美しい景色が見られます。



イラスト：歎崎 花鈴

※イラストはイメージです

良質な和紙として中世から伝わる五箇山和紙。手作りの干支人形は、温かな風合いと素材さが魅力です。



〈喜びや感謝を表現すること〉

日常に起こる小さな出来事にも感動し、感謝の気持ちを表す、とても明るい知人がいます。

その人がいるだけで場の雰囲気気が明るくなり、また会話も弾みます。私自身、あまり喜怒哀楽を表に出すことが少ないので、その人と会うたびに自分にはない感覚を持っているなど、いつも感心しています。

何気ない会話の中でも「それはすごいですね」とか「自分も頑張ります」といった前向きな言葉を口にし、また、些細なことに対して「ありがとうございます」と笑顔で話す姿は、意識されているのであれば大変な努力であり、天性であれば素晴らしいと思います。

努力であったとしても、自分自身が心の底から喜び感動しているからこそ、相手にも思いが伝わっていくのだと思います。「針ほどの事を棒ほどに喜べば、棒ほどのお陰がある」という教えを、ダスキン創業者はよく語っていました。まさしくそのことを体現できるのは素晴らしいと感じます。

日々、生活を送る中で色々な出来事がありますが、何気なく過ごしていることもたくさんあります。すべてに感動し喜ぶことはなかなかできませんが、「良かった」と感じた時には少しずつ自然に喜びや感謝の気持ちを表現できるよう、日々過ごしてまいりたいと思います。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



舞台衣装の「おろち」は町民たちの力作

鳥取県鳥取市「鹿野ふるさとミュージカル」

町民一丸で作り上げる 渾身のミュージカル

ミュージカルという 鹿野の新しい文化

江戸時代の鹿野城主、亀井茲矩(このり)が興した400年の歴史を誇る「鹿野祭」で知られる鹿野町。今やその祭りと肩を並べる程に注目されているのが「鹿野ふるさとミュージカル」です。昭和62年に始まり、今年30周

年を迎えたこの市民ミュージカルは、毎年大きなホールが満席になる程の人気を博しています。そもそも、町の有志が「地元で新しい文化を創りたい」と考えていた時に偶然、鹿野町に滞在していたプロの音楽家と出会い、ミュージカルに挑戦することになったのがきっかけでした。しかし、プロだけに「学芸会のよ



着付けなどもベテランのメンバーが教えてくれる



練習中は過去に演じた人たちが、若い人たちを指導



演出家や音楽家、照明のプロなどがバックアップする本格的な舞台は、毎回大盛況

らに今年は1歳になるお子さんも舞台に立つそうです。小林さんら親子3代の他にも若いメンバーは多く、創設メンバーの熱い想いは世代を超えて脈々と受け継がれています。

ミュージカルへの情熱で 移住やUターンする人も

練習は週2回、子どもから80歳のお年寄りまで一緒に行いま

す。大人が若い人に着物での立ち居振る舞いを教えるなど、自然と世代間交流も生まれ、厳しさの中にも和気あいあいとした雰囲気です。なかには練習するうちに鹿野の人たちの優しさにひかれて移住を決めた人や、県外の大学を卒業後、「やっぱり鹿野でミュージカルがやりたい」とUターンした人も。ミュージカルは鹿野の新しい文化として根付き、町の活性化にもつな

がっているようです。「30年もよく続いてきたなと思います。子どもたちや若い人が参加したいと願う限りは、今以上に高みを目指すミュージカルを続けていきたいですね」と語る事務局の岡田浩四郎さん。町の一大イベントを通じて住民同士が絆を深め合い、鹿野の町をより大切に思う。そんな熱い気持ち皆さんから伝わってきました。

鳥取県の 郷土料理

油揚げにお米や野菜を詰めて、だし汁で炊き込む鳥取県西部の郷土料理。特別な行事の際に近所に振る舞われ、「もらう」ではなく「いただく」という感謝の気持ちから名付けられたと言われています。

いただくの作り方



- 材料**(4個/小8個分)
- 米……………1.6合(約240g)
 - 油揚げ(うす揚げ)……大判4枚
※長方形4枚の場合、出来上がりは小8個
 - ゴボウ……………中1/4本(40g)
 - 干しシイタケ……………4g
 - ニンジン……………小1/3本(20g)
 - だし汁……………3カップ
 - 砂糖……………大さじ4
 - 酒……………大さじ4
 - 醤油……………大さじ4
 - 爪楊枝……………4本(個数分)

※炊飯器のサイズによって吹きこぼれや炊きむらができることがありますので、一度に炊く個数はご家庭で調整してください。

作り方を教えてくれた人



米子「いただきます」隊
隊長 浜田 貴稔 さん &
お母様・美智子 さん

核家族化や食生活の変化で忘れられつつある鳥取西部の郷土料理「いただきます」を継承し、さらに全国に広めようと、県内外のイベントに出展するほか、料理教室なども開催している。

- 1 米は洗って1時間ほど水につけザルに上げておく。ゴボウはささがきに、水で戻した干しシイタケとニンジンは千切りにする。
- 2 油揚げは1辺に切れ目をいれて袋状にする(左右の端を少し残すと中身がこぼれにくくなる)。長方形の油揚げの場合は半分に切る。
- 3 米と野菜を均等に混ぜ合わせて、油揚げの中に詰める。炊くと膨らむので、袋の7分目程度の量にする。
- 4 詰めたい具を平らにならし、油揚げの袋の口の部分を爪楊枝で留める。
- 5 口の部分を下に炊飯器に並べ、だし汁と砂糖・酒・醤油を入れて通常のコースで炊飯。煮汁がなくなり10分ほど蒸らせば完成。

ちよっぴーエ夫で
暮らしを楽しく

より子さんのノート

ご主人も絶賛の「カリカリポーク」

ご主人をはじめ、家族みんなが大好きなメニューのひとつ。カリカリの薄切り肉に甘酸っぱいタレがかからんで、ご飯が進む一品です。



【作り方】

(材料:約4人分)豚薄切りロース 400g/片栗粉 適量/玉ねぎ 1/4個/油 適量/タレ(醤油 大さじ5/みりん 大さじ3/お酢 大さじ3)

- 1 タレの材料をバットなどに入れてよく混ぜ合わせます。
- 2 みじん切りにした玉ねぎをタレと合わせておきます。
- 3 お肉を一口大に切って、片栗粉を薄くまぶします。
- 4 フライパンに油を深さ1cm程度入れて中温に熱し、お肉を揚げます。
- 5 お肉がからっと揚がったら、余分な油を切ってタレにからめます。
※タレにハチミツを少し入れると甘みが増してまろやかになります。



家のポーチではお茶を飲みながら夫婦の会話が弾む

20年ほど前のお二人

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山町在住。主婦歴40年の経験を生かした、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行っている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。



平日の昼食はお互い別々で



自宅で調べものをする坂井さん



畑作業の後、自宅でくつろぐご主人

77年上の主人とは職場で知り合いました。当時の私は結婚相手に求める条件をいくつも思い描いていたのですが、主人は理想の相手とはまったく逆のタイプ。でも、お話をとつても楽しくて、「質問すれば何かしら答えてくれる、誠実な姿に惹かれました。会話のキャッチボールができないと一緒においても楽しくあ

楽しい会話に惹かれて

あたりまえの存在

私たち夫婦は出会ってから今年で47年、気づけばもう半世紀近く一緒にいることになりました。私にとって主人は、側にいてあたりまえで、空気みたいな存在ですね。気恥ずかしいので普段お話しすることはありませんが、今回はこのテーマをいただきましたので、夫婦のことについて少しだけ触れたいと思います。

りませんし、ここぞという時に大事な話ができませんから、その時の自分の直感に正しかったと今でも思っています。

結婚後、私はしばらく働いてから家庭に入り、28歳の時に娘を、30歳で息子を授かりました。当時から夕食はいつも家族そろって一緒に食べたのは良かったと思います。やがて子どもたちが家を離れると、急に二人になつて最初は戸惑いましたが、話す相手が主人しかいないので、自然と二人で話す機会が増えました。

干渉し合わない暮らし

この様な生活がしばらく続いたある日、主人が「一人暮らしの経験がないから、一度一人で気ままな生活をした」と言いました。定年退職を迎えた後のことです。私は、今まで家族のために働いてくれたお礼の気持ちもありましたし、ちょうど新潟に友人の空家があったので、そこをお借りすることに。そして、月に1回は私が新潟に行くか主人が葉山に帰るかをし、一週間ほど一緒に過ごすという暮らしを2年ほど続けました。主人はそれまで働きっぱなしだったので、一息ついたかったのでしょう。結果的に私も一人の時間を楽しめたので、今となっては良い経験になったと思います。

その後、娘家族との同居を機に主人は一人暮らしを引き上げ、娘家族と六人で暮らすことになりました。新潟で農家の方から農作業を学んだ主人は、葉山に戻ってから家の近くに畑を借りて、午前中は畑仕事、夕方はウォーキングという生活スタイルを続けています。私も主人の

一人の時間を尊重したいので、平日は昼食も別々です。お互いに干渉し合わず夫婦べったりでない関係がちょうどいいと感じています。

互いに感謝し合うこと

夫婦二人だけの時期・家族四人の時期・二人暮らしの時期を経て、子どもたちの家族と同居を始めてからは、主人と一緒に孫たちのお世話をするようになり、新たな夫婦の楽しみができました。

これまでの道のりを改めて振り返りますと、今日があるのは主人のおかげだという気持ちになります。家族のために尽くしてくれたこと、そして何があっても私を側で支えてくれたことに、とても感謝しています。たまにはケンカをすることもありますが、主人も私も、あたりまえのことや小さなことでも「ありがとう」の言葉を言うように心がけています。お互いに感謝の気持ちを持ち続けてきたことが私たち夫婦の私たちを作り上げてきたように思います。これからも、二人で穏やかな時間を楽しんでいきたいですね。



第十七話

夫婦のかたち

夫婦や家族のかたちは十人十色。仲の良い坂井さんご夫婦にも今に至るまでには、さまざまな歴史があったようです。今回は、長年を共に歩んでこられた軌跡を振り返っていただきました。

ほほえみのひろば



親思いな息子

鹿児島県鹿児島市 永山 和代さん

「この間、学校でさ」。リビングで日課の筋トレを黙々とやっていた高校生の息子が話しかけてきました。「お母さんって大変なんだね。主婦が大変なのは、なかなか評価が得られないからだって」。そんな話が授業であったようです。

「それでさ」と、ふいに息子がそばに寄って来て、「もつと寝めなくちゃと思ったよ〜」と笑いながら手を握りしめてくれました。

「なによ〜」と笑い返しながらも、そう思ってたことがうれしくて、ありがたくて…。優しい息子に育ててくれたことが感じられた日でした。



とても素敵な親子のやりとり。こちらまで心が温かくなりました。



幸せなひととき

栃木県芳賀郡 川原 喜美子さん

昨年の秋の終わり頃。少し湿り気のある洗濯物をかかえ、隣の「コインランドリー」に。

20分ほど回すので、一度コンビニに行った後コインランドリーに戻り、いすに腰かけて待っていました。少しすると、年配のご婦人がやってきて私の隣に座られました。そして、定番の天気の話から始まり、「コインランドリーの話、ご近所出来事など、わずか10分間ほどの短い時間でしたが、会話を楽しみました。」

ご婦人が帰られる時、「お話しできて楽しかったです。ありがとう」とおっしゃってくれたのです。初めて会った人にそんな言葉をいただき、とてもうれしい気持ちになりました。



普段忘れがちな一期一会の大切さを実感しますね。



最高のおもてなし

広島県廿日市市 大野 あつ子さん

以前娘の友人が遠方から広島に来た時の話です。「お好み焼きを食べたいと希望されたのですが、その方はアレルギーがあり、キャベツなどの野菜がダメとのこと。それでも食べられるお店はないかと、娘は何店舗かに問い合わせしてみたものの、どのお店でも断られてしまいました。」

そんな中、あるお店だけが、「何とか考えてみます」と言ってくれたそうです。お店に行くと、伝えていたアレルギーの食材を除いた特製のお好み焼きを用意してくれていて、友人も娘も感動！感謝の気持ちを伝えると、「スタッフみんなで閉店後に色々と研究して、この味にしました」と話してくれたそうです。それを聞き、私も感動。お店の心意気と思いやりに、胸が熱くなりました。



味だけでなく心のこもった対応に、お店のファンになってしまいますね！



ママ、オムツは？

大阪府茨木市 宋 麻里子さん

ある夜、お風呂から上がった息子の体を拭き、湯冷めしないようにと慌ただしくパジャマを着せていたら、ズボンをはいた息子が自分のおしりに手をやりました。「もう〜きれいになったはずなのに、まだおしりがかゆいのかしら」と思っていたところ、「ママ？もうオムツはいたの？」と息子。あたりを見ると、はかせたと思っていたはずのオムツがまだそこに…。

息子の、自信のなさそうな表情と遠慮がちな言い方に大笑いしてしまいました。ごめんね、次からは忘れずにオムツはかせるね。



息子さんのなんともいえないかわいらしい表情が目には浮かびます。



勇気ある行動

東京都大田区 水谷 けい子さん

近所にある踏切は、周囲で「開かずの踏切」と呼ばれ、渡りきらないうちに遮断機がすぐに閉まってしまふ「恐怖の踏切」としても有名です。

最近、少し足腰が弱ってきている私。自転車を押しながら渡っていると、特別ゆっくり歩いていたらわけでもないのに、踏切内で置き去りになってしまふそうになりました。

すると、すかさず若い男性と女性が駆け寄り、私と自転車を引っ張って助けてくれました。踏切の外に出て少しすると、電車が通過。とても怖くてゾツとしました。2人の行動は勇気がないと思えないことだと思えます。本当にありがとうございました。



絶体絶命のピンチを助けてくれた勇気ある若者に拍手！



昔話が好きな孫

宮城県栗原市 佐藤 澄子さん

孫は、我が家に来る時は必ず昔話の絵本を持ってきます。何回も読んでもらった本なのに、寝る前には必ず「読んで〜」とねだるのです。私もうれしくなって、時には声色を変えたりして、孫と一緒に絵本の世界に入り込みます。孫は物語の先取りをして「鬼退治に行ったんだよね。一緒に行った動物は…」などと言うので、私は「よく知っているね。えらいよ」と褒めてあげます。そうしているうちに孫は眠りについてしまいます。

ある時、「そつだ、歌詞の中にたくさん昔話が織り込まれている、アニメの歌を教えてやろう〜」と思い立ちました。今は、その歌を孫と一緒に歌うことを楽しみにしています。



「読んで〜」の他に「歌おう〜」もお決まりのおねだりになりそうですね。

燈々無尽

人につかえる

「人を助ける」とは

思い上がりも、はなはだしい。

と、気がついた時に

「人につかえる」

まして商売人の私は

「お客さまにつかえる」

のだ、と思っただらうなずけました。

自主的に、自発的に

「人につかえる」即ち

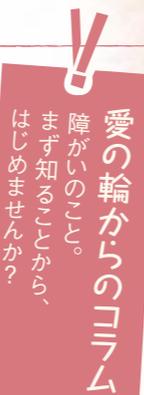
「人様のお世話をする」

自分になろう！

鈴木清一



降りに困っている人を見かけたら、積極的に手助けしてあげたいものです。



愛の輪からのメッセージ

ノンステップバスは、高齢者をはじめベ

ビーカーや車いすの利用者など、誰もが乗

り降りしやすいように工夫が施されています。

名前のとおり乗降口に階段がなく、停車

時に車高を上げて路面との段差を低くした

り、スロープの設置や車いすを固定するス

ペースを設けるなど、様々な機能で負担を

軽減してくれます。誰もが快適に利用でき

るように、バスの乗り



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎06-6821-5270 <http://www.ainowa.jp/>



あなたのお便りや写真をお寄せください。

皆さまからお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail : koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼品をお送り致します。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

No.420からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

埼玉県児玉郡
飯野 笑子さん



ママの着物だよ！
似合ってる？

新潟県長岡市
近藤 カズ子さん



成長を祝って
もらったよ！

岩手県九戸郡
下宇坪 穰さん



ほかほか
あったか〜い

みてもらおう!

読者の皆さまから
お送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。



七五三って、
楽しい〜!

大分県中津市
友田 利子さん



可愛い従妹と
2ショット♪

宮崎県児湯郡
渡邊 房子さん



愛知県
春日井市
岩田 佑子さん

おやつ
まだ〜?



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか!?

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてください!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp